

日本体操学会会報 Vol.11/2014.10

ごあいさつ

日本体操学会会長 古川 善夫

筑波大学の体育館が新しくなり、遊戯化された新しい体操場によるこそお出で下さいました。震災で壊れてしまった古い体操場は、40年前の体操場で長谷川聖修氏と楽しい男子の体操を求めて汗を流した場所でした。あれから、10年が4回も過ぎ、板垣先生のリズム体操、春山先生のトレーニング体操、長谷川氏のGボールや体操遊びなどが生まれた場所でもあります。

この新しい体操場で14回体操学会を開催することができ、長谷川、本谷、古屋氏を始めとする筑波大学体操研究室の皆様にあつくお礼申し上げます。

今大会のテーマである「共に動き、共に学び合いながら、体操における『あそぶ力のFUNDamental』について自由にアイデアを出し合ひましょう。



日本体操学会第14回学会大会報告

第14回学会大会が、秋晴れのつくばで開催されました。

- 期間 2013年9月13日(土)、14日(日) ●会場 筑波大学中央体育館
- 学会プログラム(日本体操学会HP参照) <http://gym.tsukubauniv.jp/14th-tsukuba/>



Welcome to Tsukuba



オープニングパフォーマンス

タッチ体操クラブ ・ 筑波大学体操部 ・ みんなで体操

私、個人の感想になってしまいますが、東日本大震災からの復興イベントの感ありでした。

天井のたかーい新体育館でのオープニングパフォーマンスは、ピンクも鮮やかな衣装と体操の基本の動きがマッチしたオープニングにふさわしい演技で童謡や童話のように心に語りかけてくるタッチ体操クラブの演技でした。（ホンマに諸事情で順番変わって正解でした！）



筑波大学体操部の演技は「アルプスの少女ハイジ」の曲に合わせての演技でした。ヨガマットの多様性を感じる表現活動でした。いろんなものをその本来の用途にこだわらずに使って身体の動きを見せるなんてまさに筑波大学体操部（長谷川）ワールド全開！

さぁ～！ボチボチ、私たち参加者も動かないとな～！って思える、参加型体操学会のオープニングパフォーマンスでした。（住本 一）



基調講演&実技

太田昌秀（上越教育大学連合大学院名誉教授）

幼児の動きを引き出す指導-発生運動学的な視点から-

子どもの時に様々な遊びを通して豊かな体、豊かな動きをつくるのが、この時代だからこそ重要であるのではないかと太田先生のお話から感じる事ができた。

スキップを身につけるための導入では、これに気がつくまで20年

を要したと太田先生はおっしゃっていた。実際に試した参加者からは、「おおー！」と、自らの足が自然にスキップのリズムで進んでいることに驚きの声が聞こえてきた。

さらに、すごい！と感じたことは、太田先生がお孫さんのために作られたたくさんのおもちゃであった。「一押し！」と色々な遊び道具を紹介してくださった。その後、参加者は童心に帰ったように、その手作りおもちゃを試しては笑い声や歓声をあげていた。「あそぶ力の FUNdamental」の大切さを再確認できた講演・実技であった。（檜皮 貴子）





「一押し！」
太田先生自身が作られた遊
び道具が溢れていました。



あそぶ力の

FUNdamental

口頭発表

基調講演の後、口頭研究発表が体操場で行われた。発表時間 10 分、質疑応答 5 分で 3 題の研究発表がなされた。

ボールを用いた股関節可動域エクササイズに着目した研究、学校体育にラート教具を導入するための研究、エイサーのダンス教材としての実践例報告など、多岐にわたる内容が発表された。

質疑応答では、参加者から研究と現場をつなぐための方法や研究における疑問点などが質問されていた。研究代表者は一つ一つの質問に丁寧に答え、研究で明らかになった知見とこれからの課題について述べていた。(檜皮 貴子)



アクティブ発表・ポスター発表

体育館が発表会場となった両発表は、アクティブ発表 9 題、ポスター発表 8 題。

研究発表内容は学校体育の体づくり運動に関するもの、日頃の指導内容を紹介したもの、地域住民の健康づくりにおける研究、被災地における体操教室の意味など、他分野にわたる様々な研究発表が並んだ。前半の 40 分間では発表者に一人 2 分ずつのコンパクトプレゼンテーションの時間が設けられ、各自が研究内容のアピールを行った。その後 50 分間のフリーディスカッションタイムが始まり、それぞれの発表者がポスターの前に立ち、実技を交えながら活発に議論する姿がみられた。他の学会でも同じだが、ポスター発表は制約された短い時間の中で行われる口頭発表とは異なり、発表者と質問者とがじっくりと意見交換できるメリットがある。特にアクティブ発表は、本学会の「動いて学ぶ・学んで動く」というモットーにピッタリの発表形態なのではないだろうか。

(三宅 良輔)



公募研究発表

ハワイ在住の早野曜子氏と共同研究をされた金子嘉徳氏（他共同研究者 2 名）からの報告は、『地域高齢者を対象とした運動教室に関する調査－米国ハワイ州と日本国内との比較－』であった。参加者は双方とも健康・体力維持に対する意識が高いが、ハワイではより「体力の改善を実感」できる内容が求められ、日本では「人との交流」など精神面での満足感が得られる内容が継続につながるのではないかと考察されたことが、それぞれのお国柄を反映しているようで興味深かった。

キッズプロジェクトの発展として 2 年目の報告『スナップスティック（ペットボトル鳴子）を活用した事例～「天までとどけわらうた」の音にのせて～』は、藤巻裕昌氏と 12 人の共同研究者による発表であった。食育事例の動画では、スナップスティックが教育ツール・評価ツールとして有効に使われていることが見て取れた。また、スナップスティックも初代からさまざまなバリエーションが紹介され、対象や場面にあった工夫が広がっていたことに感心した。（砂田 真弓）



ワークショップ&シンポジウム

3人の講師より各々約50分のワークショップの後、シンポジウムを行った。

一人目の吉中康子氏は、地域のシルバー世代を対象に長年に渡り指導をされてきた体操教室の内容を、次々と参加者と一緒に動きながら紹介された。楽しさの中にも介護予防を意識した生理学的にも必要な内容とスキンシップが含まれ、その指導に引き込まれて気がつけば気持ちよく汗をかいてしっかり動いていた。

二人目の平瀬正典氏は、スポーツクラブで水泳指導をしていたが、その後ネットビジネス等にも携われ、メディア・ネット・アイドルを活用してフィットネスを普及する活動を進めている。

「三筋後退→サンキンコウタイ」や「加齢は遅筋→カレーはチキン」などユニークなネーミングも目からうろこで、苦勞より工夫、ブームにする仕掛けが必要、などマネジメント的な視点が心に響いた。

三人目の瀬戸口清文氏は、多くの方がご存知の「セトちゃんワールド」に参加者を巻き込み、みんなが子どもの心に帰って「あそぶ力のFUNDamental」を実感させてくれた。「子ども達が思わず動きたくなる」は「大人も思わず動きたくなる」につながり、体操指導をするときに忘れたくないことを再確認した。

シンポジウムのテーマ「体操をあそぶ!？」は、一見対極にある「体操」と「あそぶ」が実はクロスしていて、「学ぶ」は「まねる」から始まり、「動くことで楽しくなる・心が動く」ということを改めて感じられたセッションとなった。(砂田 真弓)



プレイベント

第14回大会に先立ち、筑波の地元の親子を対象にしたプレイベント「マリオとあそぶ体操教室」が行われた。新しく建て替えられた体育館は、集まった子どもたちには魅力いっぱい場所である。JP クッション、G ボール、マット、トランポリン、滑車つきボード、15mの高さから吊り下げられている大ブランコなどの体操用具が、遊び道具となり所狭しと並べられた。このプレイベントのねらいは、TV ゲームの大好きな子どもたちに対し、「スーパーマリオブラザーズ」のゲームの中の世界を現実化させ、体を使って様々な運動であそぶこと。長谷川大会組織委員長の進行により、参加者同士が触れ合いながら行う JP クッションや G ボールによる準備運動から始まり、各々の親子が日頃出来ない運動遊びを楽しんでいた。子どもたちはもちろんのこと、子どもと一緒に楽しんでいた親御さんたちがマリオあそびの運動量の多さや体を操る難しさを実感して驚いていた様子が印象的であった。(三宅 良輔)



ポストイベント

ポストイベントは、「うつくしま体操教室」の公開教室であった。「うつくしま」という言葉は、「つくば」と「ふくしま」からなっており、その言葉の通りつくば市と福島県双葉町の皆さんが仲良く、うつくしく、素敵に体操を通して活動している一場面を見ることができた。具体的には、「365 歩のマーチ」を歌いながら足元がぐらぐらする体操、G ボールを使った 2 人組の体操等であった。お互いの体をいたわりながらマッサージする時は本当に気持ち良さそうな笑顔が見られた。皆さんのあふれる笑顔と歌声から、その時、その瞬間を楽しく豊かに過ごすことの大切さを感じることができた。体操場には、学会後の穏やかな時間が流れていた。(檜皮 貴子)



交流会

動いて・学んでの学会大会初日のお楽しみはみんなで飲んで騒いでの交流会！一年ぶりに参加者の皆さんの近況や活躍ぶりをお聞きできるので、この会の楽しみであります。ほとんどの方々は年に一度の再会になるのですが、口の中にいっぱい料理を放り込んでのご挨拶になってしまい大変失礼いたしました。基調講演をしていただいた太田先生とも名刺交換ができたのも私にとっての励みとなりました。早速、大阪に帰って太田先生にご教授いただいたいろいろな動きを使わせていただいております（保育に携わる者として多くのヒントをいただきました）。

毎年恒例の各地域ごとに集まっての自己紹介ですが、全国津々浦々からの参加者の地方色があまり楽しませていただいております。（中国地方と四国地方の参加者が少数なんで、この地域からの参加者がもっと増えれば嬉しいと思います）。

中締めには、例年通り鹿児島の神川先生のパフォーマンス！これがあつての交流会！また 次回もよろしくお願いします。（住本 一）



お世話になった筑波大学のみなさま



平成 26 年度日本体操学会理事会／総会報告

平成 26 年度日本体操学会理事会・総会は、9 月 13 日（土）に開催され、64 名が出席した。平成 25 年度事業・決算ならびに平成 26 年度事業計画・予算案が承認された。第 10 回学術研究集会は、平成 26 年 3 月に、東海大学高輪キャンパス（東京）にて開催されることが報告された。また、第 15 回大会は平成 27 年 9 月 12 日（土）・13 日（日）に京都学園大学にて開催されることとなった。（檜皮 貴子）



編集 日本体操学会広報委員会 三宅 良輔 砂田 真弓 住本 一 檜皮 貴子 山田 恵子